



批評と紹介 道路の父テルフライドの功績

藤 井 眞 透

道路改良の急務が叫ばれる、時に當り嘗て「道路界の巨人」と呼ばれ、「道路技術の開祖」と謳はれた有名な技術家で英國土木學會の創立者であり、その第一代会長たりしイーマ・ス・テルフライドの百年祭を昭和九年九月二日に迎へるのである。

テルフライド時代は産業革命の結果として交通繁激を加へ路面は著しく損傷して全く行き詰つた時であつた。文豪マコーレーの記述をみるとクラレンドン卿がホーリーヘッド街道を経て愛蘭旅行の際にはセント・アサツプとコーンウエイ間の僅一四哩を五時間を要してゐる、アサツプからバン

ゴル迄は徒歩を餘儀なくされ、夫人は擔架により、自用の馬車は村人の手で辛うじて運び得た。當時は一般に馬車をコーンウエイで解體しメナイストリート迄ウエールスの農夫が擔いで運搬するを常とした。

(一) 彼の生立ち

彼の工學技術に關する貢献は多年の苦しい體驗と勤勉なる研究の賜であつた。

彼は一七五七年八月九日ドム・フリス縣エクステール在の寒村ウエスエルキルクの牧夫の子として生れ、生後三月で父を失つた。長じて羊その他の家畜を飼ひ、又は近隣の

農場で勞働に従事した。三年間簡単な學校教育を受けたが勤勉なる彼は直に學友を凌駕し驚くべき努力を續けた。

一五歳の時ラング・ホルムで石工徒弟となり年期を了へて日給一シル六ペンス（七五錢）の石工となりエヂンバラで働き更にロンドンに行き、ウイリアム・チャムバー卿の下でソマーセット廳舎建築に従事したが、その技能を認められポーツマウス造船所の建築主任となり、茲に彼の生活の轉機を作つた。

彼は此處で船渠、岸壁等の築造を體驗し、更にウイリアム・ブルデニイ卿の爲にシュリュスベリイ城の改築に主要なる設計變更を申言し彼の博學と技術とは愈々認めらるゝに至り、パルトリイ卿は彼の才能を認め、シロップ郡の土木監督官として彼を推薦するに至つた

(二) 技術家としての活躍

幾多の大膽にして新規なる工法を考案して偉大なる貢獻をした技術家としての彼の活動はその頃から始まつた。

懇望されて従事した最初の工事はメルゼイを結ぶデー・

セバイン兩河間のエレスメヤリ運河開鑿であつた。之は未

曾有の大工事で彼は之に従事する爲に土木監督官を辭して之に専心した。その俸給は五〇〇ポンドに過ぎず、而も此中から書記、技手、工夫の給料及自分の旅費をも支辨しなければならなかつた。彼はその性格上、社會に對する自己の仕事の價値以上の報酬を望まなかつた。彼はチャークのセイリオグ溪谷及シシルタン港のデー溪谷を横斷する二箇の水路橋を造り前者は徑間四〇呎高七〇呎のアーチ一〇連より成り、後者は幅一一呎一〇吋の鐵製樋を通する高一二一呎のアーチ一九連より成る延長一〇〇七呎のもので當時その竣功は「現代に於ける人類の最も偉大なる苦心の創作」と稱せられたものである。次にセバイン河のモント・フアイドとビルトフアーズに於て橋梁架設に従事し前者は一三〇呎の單徑間アーチである。更に英國漁業協會の懇請により港灣に關する廣汎に互る調査を遂げた。

然し彼の最大の活躍の天地は蘇格蘭であつた。始め土木事業に關する全般的計畫を立て、政府に上申し、先づカレ

ドニア運河を開鑿して北海と内海とを結び、更にハイランド・ラナーク縣及ドムフリス縣に互り延長四哩以上の道路を築造し、一二〇〇以上の橋梁を架設し、尙必要に應じ港灣、教會、牧師、住宅等あらゆる建築に従事した。

(三) ホーリーヘッド街道の改修

以上の工事を終つてから彼はホーリーヘッド道路の改修に力を注いだ。本路線は二三の個々獨立せる賃取組合から管理せられて居り、内六はウエルス洲にあり一七は英蘭にあつたが何れも維持を怠り延長一九四哩に互り路面甚しく荒廢に歸して居たので止むを得ざるもの外通行するものはなかつた位で、皇室用の荷物の外はシユルスベリーとバングル間の運送は夏季の一週一回往復の運送人で漸く保たるゝ状態にあつた。之はメネストレート河は一年を通じて泥濘で通行し難く、アングレゼーは突兀たる出石があり、而も當時ではアイルランド行き唯一の道路であつた。

テルフワードは此工事に懸命に努力した愛蘭のホウイズとホーリーフツドに港灣設備を行ひ、メネストレスト河に

工費一二萬ポンドの大吊橋を架し、從來幾多の技術家が實行し得なかつた理論を實施した。更に全路線を現在の如き幹線道路の線形に改良した。

道路技師としての業績は之に止らずしてカーライル・グラスゴー間延長六八哩の改修を行ひ主要橋梁一五を架した之により延長九哩を短縮し得たが政府はその効果の大なるを認めて五萬ポンドの公債を發行して之を完成せしめた。

(四) 輝しい彼の功績

老齡となるも彼は精力益々絶倫で六八歳から七一歳に至る間彼は遞信省の囑託として大英帝國の全部に互り測量を行ひ、更に、ケスベリーとグロスターに於て嘆賞された美しいアーチ橋を架設し、ロンドンノセント・カザリン船渠を造り、更にエチンバラのデーシ橋をかけた。七八歳の時の設計で四四七呎三徑間の美しいアーチで深さ一〇五呎の各の上にかゝり兩岸の傾斜面のグリーンが今も彼の美的情操の尊さを永久に語つてゐる。

尚グラスゴーのクライド橋の設計をなしフェン縣ノース

レベル灌漑工事をも計畫した。

彼は道路と同時に運河にも偉大なる効績をあげた、マクレスファイルド運河、バーミンガム・リパブリック運河、グロスター・バークレイ運河、ウイバー運河等は總て彼の開鑿にかゝり、尙港灣工事としてもウイク、ドンテ、ピーターヘッド、バンフ、フラツテブルク、フアルトローズ、クウレン、キルクワール、アバーデンの各港灣工事を掌つた。行く所として可ならざるなき彼の天才であつた。

(五) 彼の晩年

彼の超人的活動に關らず彼は極めて清貧に甘じ、年八〇〇ポンドの收入に過ぎなかつた。彼は一生獨身で終り、刻苦勉勵が彼の唯一の趣味であり友とあつた。

土木學會の創立者となり、その第一代の會長に選ばれたのは彼の名聲をトするに足るべく、學會に圖書館を寄贈し二萬ポンドを寄附して學界の發達を促進せしめた。

一九三四年九月二日、ウエストミニスターで靜に永眠した。今年は丁度その百年祭であり各地で彼を偲ぶの夕が催

される計畫がある。

(六) 死後の光榮

ロンドンのウエストミニスターアツペイは英國皇室の代々の陵墓のある所である。一方に世界大戰の無名戦死者の墓があつて國民の永久の記憶に生き、他方 Royal chapel の中には第一代國王ウイリアム・コンケラーの陵が中央にその左にマリー女王とエリザベス女王の陵がある。その周圍には、ジェームス・ワツトを始め幾多學術技藝政治あらゆる部門の偉人像を列立せしめてゐる。

彼れテルフアードもその中にフィリップ・ケムブルの隣に立つてる、左手を机上の二冊の書籍の上にのせ、右手にコンパスを持つてゐる高八呎の像である、その銘記に次の如く記されてゐる、

President of the institute of civil Engineers.

Born at Glendinning in Eskdale,

Dawries shire in MDCCCL VIII.

Died in London MDCCC XXX IV.